

ドブロニツァの旧市街の対岸にあるロクム島は、その昔「呪われた島」と恐れられていた。ドブロニツァから追放された人々がこの島に呪いをかけたとか。その島も、今ではヌーティストビーチで有名な



06・いちばん大きな「ヴィラバルミジャーナ」は明るいイエローが基調になっている。広々とした2つのベッドルーム、リビング、バスルームを擁する。07・12のヴィラの中心にあるレストラン。あちこちにアーティストの作品が飾られている。08・暖かくなると屋外のダイニングは子供たちの溜まり場に。09・家族やカップルはもちろん、バルミジャーナは動物にとっても天国だ。ハーバーでは気のいい彼がお出迎え。10・ガーリック、白ワイン、オリーブオイルで調理したエビの「プザラ」も絶品! 90Kn



ヴィラ・メネゲーロ

Villa Meneghello

Palmizana, 21450 Hvar

☎021-717-270

FAX021-717-268

全12棟

全棟バスまたはシャワー付き

1棟400〜3,360Kn(1棟3人利用の料

金、時期により値段は異なる。

夏期は一週間以上から予約可

朝食: 込み

カード: (A), (D), (M), (V)

www.palmizana.hr

MAP → P078

ラミジャーナのよ」
テラスから見渡す海は、まるで時の流れをそっくり包み込んでしまったかのように穏やかだ。世界でいちばん静かな海で過ごす幸福なひととき、いつしか水面は夕暮れに染まり蒼白色にまどろんでいた。

満腹したころ、ロミナさんが秘密のスポットを教えてくれた。海を見渡す岬からの眺めは、家族だけの特権だ。複雑な模様を描く入り江は、自然に閉ざされた穏やかな年月を物語っている。「誰もいなくなる10月ごろ、陽が弱るといっばん海に近いテラスに行くの。静まり返った入り江に日が沈みはじめ、海から涼しい風が吹く。自然と静寂、それこそがバルミジャーナのよ」

る古代ギリシャの壺が置かれており、窓からの風景と絶妙なコントラストを描く。テラスにかかる松の木のシェードはまるで手招きするかのようにバルミジャーナの食卓も、毎日が幸せだ。家族が釣ってくる新鮮な魚介類、色濃い野菜は菜園で育てたもの。「ローズマリーやいろいろなハーブを漬けたグラッパだって自家製よ」とは、ここを切り盛りするロミナさん。ゲストを暖かくもてなすのが身上とばかりに、とびっきりの料理とワインで歓迎してくれる。

バルミジャーナ

島と一体になったヴィラは、 自給自足のエコリゾート

エキゾチックな色彩の天国は、自然の神様がくれた贈り物。
この島のヴィラで、「何もしない」という贅沢を知る。

Photos : TAKESHI DOI, Coordinate : EDOUARD TRIPKOVIC KATAVYAMA, Realization : FUYOKO KURAIISHI

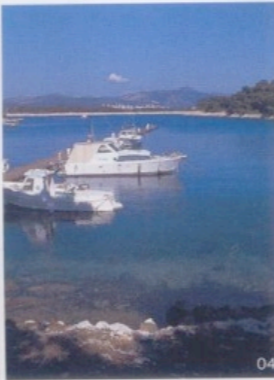


01

01 緑深い高台に点在する12のヴィラ。坂道を降りていけば、そこはもうビーチ！ 02 レストランのテラスの周りにもトロピカルな植物が。03 レストランでいちばんのご馳走が手前の「グレガダ」、フヴァル島の名物だ。フレッシュなシーフードを屋外の大鍋でぐつぐつ煮込む、クロアチア式ブイヤベースは45Kn。04 フヴァル島からは送迎ボートが。05 ヴィラは広さ、構造から「ヴィラ」、「ハウス」、「バンガロー」に分けられる。これは「ブルーバンガロー」のリビング。



05



04



03



02

風と陽射しと鳥の声。びんと澄んだ大気は穏やかなローズマリーの香りに溢れ、太陽の恵みをいっぱい受けたリュウゼツランが空へ向かって高く、高く顔をあげる。フヴァルの港から小さなボートで15分、アドリア海一の日照時間を誇るバルミジャーナはフヴァル島の南、パクレニ諸島に属するサン・クレメント島の一エリアだ。今から100年前、ナチュラリストのエウゲン・メネゲロ教授が、一族が300年にわたり所有していたこの島にエコリゾートを作り上げた。世界中からエキゾチックな植物を取り寄せ、ブドウやオリーブの木を植え、農業や酪農に励み…自給自足の生活が始まった。

モダンなヴィラと、豊かな食卓。

ビーチから程近い高台に、石造りの12のヴィラが建てられている。オレンジ、ホワイト、ターコイズ…島に咲く花の色のようにとりどりの名前がつけられたそれは、構造もインテリアもまったく異なる。ロマンティックな地中海風に飾られた部屋の内装は、メネゲロ家と親交のあったアーティストたちが手がけたもの。それぞれのテーマカラーでまとめられた室内にはアーティストのオリジナルの絵画やメネゲロ家が所有す